

## 設立の目的

終戦混迷期中、資材の適正配給を受けるために運搬車両業界が結束し、昭和21年8月に日東鉄工(株)他5社が発起人となって「小型車輛協議会(初代会長 松平勇雄氏)」を設立しました。その後、「小型車輛工業会」、「日本小型車輛協会」、「日本小型車輛工業会」「日本運搬車両機器工業会」と改称し、昭和53年6月に現在の名称となりました。特に物流現場におけるMH(マテリアル・ハンドリング)のなかで荷役運搬車両技術の革新と品質、作業環境、管理技術の向上並びにグローバル化への対応そして会員相互の情報交流をより一層推進、発展を果たすことを目的とします。

## 活動内容

### ○ JIS規格の原案作成

昭和26年、当協会として工業標準化事業に本格的に取り組む。昭和28年、小型運搬車JIS原案作成を第1号に数々のJIS原案作成をすすめ、47年間工業標準化事業の歩みを保持する。その歴史は業界団体でも数少ない実績団体です。運搬車両機器業界唯一のJIS原案作成の推進団体です。

### ○ 海外視察・見学会・研究会

欧米をはじめ、アジア・南米などの数々の視察団を編成し、その功績は内外共に認められています。特にアジアにおける物流技術交流において他団体よりも積極的に取り組み、その歩みは継続されています。現地企業の視察訪問を通じ、意見交換・情報収集・調査・交流会を行い、物流動向と現状を広く深く分析、把握します。年間1～2回の視察団、4～5回の見学会を実施しております。

### ○ 部会、委員会活動

現在、3部会、4委員会の下でISO、JISの対応。業界の技術開発研究、推進に活動しております。(運営組織図参照)

### ○ 国際物流総合展の主催団体

内外の最新物流機器・システム・情報などを一堂に結集し、交易振興、技術の向上・情報の提供・人的交流などを促進することを目的に開催。現在、主催6団体の1つとして、わが国の運搬車両機器業界の唯一の窓口として、内外その責務を果たしております。開催は隔年、会場は東京ビッグサイトにて定期的に行われます。

### ○ 技術相談・コンサルティング

技術者養成と講習会を実施。運搬車両機器の改善、共同研究など業界唯一のコンサルティング。業界のデータ、機種別動向のアドバイスと情報提供。



当協会主催の特別セミナー

## 事業内容

当協会は、時代の変化・要請に応じて数々の事業を展開してきましたが、現在は下記事業内容で活動をすすめております。

- ① 関係官庁との緊密な連絡、行政諸施策に協力し、わが国の経済の発展に貢献
- ② 省エネルギー及労働安全に寄与する運搬車両・機器の技術開発に関する調査・研究
- ③ 経済産業省産業技術環境局標準課のご指導の下でJIS(運搬車両)に対する制度、改定、廃止への対応
- ④ 各種運搬車両機器の標準化、規格化の推進と、品質・作業環境の向上
- ⑤ 各種運搬車両機器に関する共同開発研究の推進とグローバル化への対応
- ⑥ 業界の需要予測および生産出荷統計の作成
- ⑦ 運搬荷役の改善、合理化施策の研究・推進
- ⑧ 運搬車両及び運搬機器を業とする企業の高度化施策の推進並びに指導
- ⑨ 物流機器・システムに関する内外関連団体との情報交流及び協力
- ⑩ 運搬車両機器に関する研究会、講演会、展示会の開催などによる普及、促進

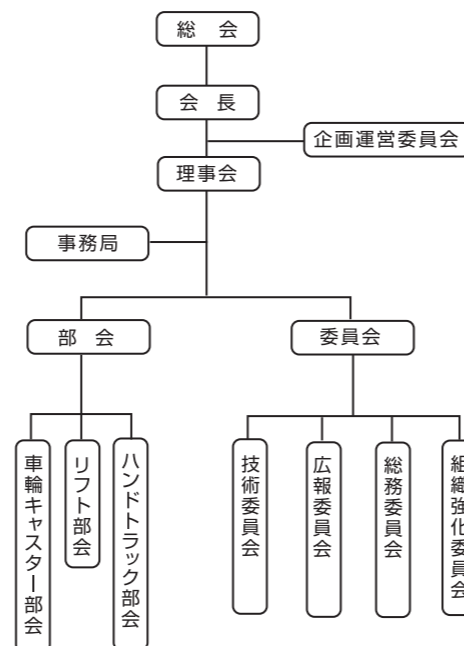


創立65周年記念式典



年に1回定期的に行われる定時総会

### ● 運営組織図



当協会と日本能率協会、日本産業車両協会など6団体による国際物流総合展(隔年開催・東京ビッグサイト)



活発に意見交換される3部会ワーキンググループ合同部会

## 協会のおゆみ

昭和21年(1946) 日東鉄工(株)社長松平勇雄氏ほか5社が発起人となり、全国の同業者の有志(リヤカー業界、ゴム車輪業界、軽車業界、農機具業界)に呼びかけ40数社の参加を得、「小型車輛協議会」を設立。初代会長に松平勇雄氏を選出。

昭和29年(1954) 工業技術院が設置した小型運搬車JIS専門委員会に当業界より生産者代表9名を派遣、審議に参画、5つのJIS規格が制定された。

昭和30年(1955) 工業技術院が前年7月、工業標準化法第9条のJIS表示指定品目に小型運搬車を指定したのを受け、JIS表示許可工場11社が誕生。

昭和36年(1961) 第1回 協会会報を発行(月1回定期発行)。

昭和38年(1963) 業界の生産機種も多様な関連機器を生産するに至り、当会の拡大をはかる意味において「日本運搬車両機器工業会」と改名、事務所を東京都中央区銀座2-9-4 銀座会館に置く。

昭和41年(1966) 技術委員会(委員長・瀬川為三郎氏)にハンドトラック部会、トレーラ部会、コンベヤ部会、油圧機器部会、車両及び支持金具部会を設置。

昭和45年(1970) 小型運搬車両の使用調査、使用実態、需要予測などを分析し、業界のあり方を求め、「小型運搬車両需要動向調査報告書」を発行した(A4版・165頁)。

昭和46年(1971) JIS B 8930 ハンドパレットトラックの種類及び主要寸法、JIS B 8931 プラットホームトラックの種類及び主要寸法が制定。また物流機械展(現在の国際物流総合展)の主催団体となり、以降今まで業界と各社製品のPRの場を提供。

昭和47年(1972) 技術委員会の他に、運営委員会、近代化推進委員会、用語委員会、経営研究分科会、編集分科会を設置。

昭和51年(1976) 技術委員会が「ハンドトラックの設計手法」分科会(会長・干場哲郎氏)を組織し約3年間の審議を重ね、昭和51年10月当工業会創立30周年記念出版として「ハンドトラックの設計手法」を発刊した。11月、創立30周年記念祝賀会開催(於:熱海ホテルニューアカオ)。

昭和53年(1978) 名称を「日本運搬車両機器協会」とし、創立総会を開催(於:東京商工会議所)、会員数134社、会長に山本茂義氏を選出。

昭和55年(1980) AIS TL-1(テーブルリフト用語)が制定。

昭和57年(1982) 西独ハノーバーメッセ、欧州先進企業視察団を派遣。

昭和61年(1986) AIS TE-1(運搬車両機器の分類と名称)が制定。

平成元年(1989) '89中国物流技術友好訪中団派遣(主催:流通研究社)、第1回北京国際物流機械展のオープニングに日本代表として参加(13名)

平成2年(1990) 米国・メキシコ物流研修視察団を派遣(参加19社)。

平成7年(1995) 協会誌「うんぱん」の新創刊号(No.85)発刊。編集・企画を株流通研究社に委託。

平成8年(1996) 創立50周年記念式典を開催(於:全日空ホテル)。50年史「おゆみ」を配布。

平成10年(1998) 運搬車両機器5団体の第1回事務局連絡会を開催。

平成11年(1999) 事務所を東京都豊島区南池袋2-47-6に移転。

平成12年(2000) 協会誌「うんぱん」に代えて「JMHA配信」を月刊「マテリアルフロー」に毎月掲載することに決定。事務局を流通研究社に設置。

平成17年(2005) 当協会の補助事業として、第10回国際物流展(上海)に4社出展。並びに60周年記念として同展示会視察。

平成19年(2007) セマットアジア2007(上海)視察団派遣(27名参加)

平成20年(2008) 事務局を花岡車輛内に移転

平成23年(2011) 一般社団法人に認可され「一般社団法人 日本運搬車両機器協会」となる創立65周年記念式典を開催(於:ホテルニューオークワ)